

授業科目

臨床化学実習II

担当教員名 久保野 勝男	対象学年	2	対象学科	臨床
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	45

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○	○	◎

授業の概要

病気の指標となる血清中の成分を定量する技術を習得する。具体的には、定量に必要な器具器材を学び、それら装置の操作法や分析方法を理解し、臨床化学分析における基本操作、定量方法、結果の解釈などの技術を学ぶ。

授業の目的

- 1 臨床検査において病気の指標となる成分の分析法の原理を理解する。
- 2 測定して得られた値の臨床的意義を理解する。
- 3 得られたデータの正確性、精密性の解釈の方法を理解する。
- 4 得られたデータの精度管理の方法を理解する。

学習目標

- 1 各検査項目の分析方法を説明できる。
- 2 検査値の臨床的意義を説明できる。
- 3 データの正確性、精密性について説明できる。
- 4 精度管理の方法を説明できる。

授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1、2	採血、尿酸の測定	講義・実習	
3、4	ビリルビンの測定	講義・実習	
5、6	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼの測定	講義・実習	
7、8	アラニンアミノトランスフェラーゼの測定	講義・実習	
9、10	乳酸脱水素酵素の測定	講義・実習	
11、12	クレアチンキナーゼの測定	講義・実習	
13、14	アルカリホスファターゼの測定	講義・実習	
15、16	LDアイソザイムの解析	講義・実習	
17、18	アミラーゼの測定	講義・実習	
19、20	鉄の測定	講義・実習	
21、22	薬物モニタリング、精度管理、臨床検査情報の評価	講義・実習	
23	尿酸の測定 (2)	講義・実習	

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	臨床化学検査学	浦山 修、奥村 伸生、戸塚 実 他	医歯薬出版株式会社	2016年	5,600円+税	
参考書	異常値の出るメカニズム	河合 忠、屋形 稔、伊藤 喜久 他	医学書院	2013年	6,000円+税	
	臨床化学検査学 実習書	大西 英文、狩野 元成	医歯薬出版株式会社	2015年	3,000円+税	
その他の資料						

評価方法

血清成分の測定法の原理についての理解度や機器を用いた定量に関する手技を、レポート (70%)、実技試験 (10%)および期末試験(20%)で評価する。

履修上の留意点

疾病と検査値の関わりを学ぶので項目毎に異常値の出るメカニズムを予習して臨むこと。

オフィスアワー・連絡先

木曜日 3限・4限 F110号室 kubono@nuhw.ac.jp